

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	伊万里市立小中一貫校滝野校
-----	---------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県学習状況調査の結果を踏まえた対策を共通理解することができた。学力向上対策評価シートを元に、次年度も継続して指導を続けていく。 ・ 食育調査やアンケート、学校評価調査の結果より、児童生徒の心身の保持増進を養うことができた。次年度も引き続き取り組んでいきたい。 ・ 業務改善委員会を立ち上げ、今年度の取組をもとに、「行事のしおり」を作成し、次年度はさらに業務改善を行っていく。 ・ 感染拡大防止の手立てをとりながら、少しずつ学校行事を実施することができた。次年度はコミュニティスクールを軸に取り組んでいく。
------------------	---

2 学校教育目標	故郷に感謝し 心豊かに 志を持って生きる児童生徒の育成
----------	-----------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 分かる授業の構築と確かな学力の向上 ② 豊かな心と健やかな体づくり ③ 家庭・地域とつながり、地域を元気にする学校作り
------------	---

○データ入力する場合：下記のフォルダーへ
 ・R3→
 32_◆◆学校評価◆◆→
 ▼ここに入力！ R3 中間評価

4 重点取組内容・成果指標 中間評価

(1)共通評価項目				中間評価		主な担当者	主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価			
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上とする。	・校内研究の際、全職員で学力向上対策評価シートの確認を行い、取り組みの促進を相互に促す。	C	・9月末現在、職員によるマイプランの成果指標達成81%。再度、学力向上対策評価シートの確認と、取組の促進を促すことで、90%以上を目指す。	山口・吉野 (深堀・脇本)	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○分かる授業の構築	○学校評価アンケート項目「授業が分かる」の肯定的回答が80%以上とする。	・全教科で「も(問題)み(見通し)し(調べる)ま(まとめる)れ(練習)ふ(ふりかえり)」に沿った授業を展開する。 ・「主体的・対話的で深い学び」の指導法を工夫する。	B	・9月末現在、児童生徒の学校評価アンケートで「授業がわかる」の肯定的回答が85%。職員へのアンケートでも「分かる・できる授業」を目指した授業を行っている」の項目で89%であった。今後も校内研の時間を中心に、指導方法の改善について情報交換や共通理解を図っていく。	山口・吉野	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○年間計画に基づいて道徳の授業を行った教師を90%以上とする。 ○人権・同和教育を推進する。	・各学年で年間計画に沿った道徳の授業を行う。 ・人権集会や平和集会を開催し、児童生徒の人権に対する意識を高める。 ・やまびこ広場で担任以外の教師も講話を行い、児童生徒の心を豊かにする。	B	・年間計画に基づいた道徳の授業については達成率が86%であり、90%に達していない。 ・人権集会や平和集会などの事前事後にはクラスで道徳の授業を行い、深化補充に努めた。 ・「やまびこ広場」では教師の講話の後、学年ごとに話し合う時間を設け、深化補充を図った。	山口・原田	道徳教育推進教師 特別支援教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○毎月の生活アンケートの実施率100%を目指し、全ての児童生徒と全職員でいじめの芽を見逃さない力を高める。 ○全学級で年間1時間以上は、命に関する授業を公開し、職員間の意識を高める。	・児童生徒に月1回の生活アンケートを実施し、児童生徒の人間関係の把握に努める。また、困り感のある児童生徒を見逃さないようにSCやSSWと連携し、計画的にいじめ防止に取り組む。 ・人権・同和教育や道徳の時間、職員による人権講話を定期的実施する。	B	・生活アンケートは月に一回行い、児童・生徒の人間関係の把握ができた。また、気になる児童生徒には担任から話を聞いてもらうなどした。 ・伊万里市の人権擁護委員会から人権講話を行っていた。また生徒には人権に関わる標語を作成させた。	吉武	生徒指導主事
	◎ふるさとに感謝し志を持って生きる児童生徒の育成	◎閉校に向けて総合的な学習の時間の10%を活用し、地域への感謝の思いを発信する。	・児童生徒会を中心に閉校に向けての行事を計画・実行させる。 ・総合的な学習の時間に滝野についての調べ学習を行い、交流先の学校で発表させる。	B	・11月の交流会で、滝野のことを紹介する機会を設定した。それに向けて、調べ学習やプレゼンテーションの準備を進めている。	深堀・脇本	教務主任
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○バランスの良い食習慣は、健康につながると思える児童生徒を90%以上にする。	・早寝早起き朝ご飯のアンケート実施する。 ・給食後の児童生徒の観察(アレルギー反応)を行う。 ・「食」についての講演会を実施する。 ・保健だよりを発行する。	B	・6月に1回目の朝ご飯アンケートを実施した。2回目を11月に実施する。 ・「食」についての講演会児童生徒向けは6月に実施した。保護者向けは2月実施予定で進めている。 ・保健だよりは、毎月2回を目標に発行できた。	前田	養護助教諭 食育教育担当者
	○運動習慣の改善や定着化	○「運動やスポーツが心身の健康の保持増進に大切である」と考える児童生徒を85%以上にし運動習慣の定着化を目指す。	・部活動を通して、活動する意義や目的を伝える。 ・授業以外で、運動を行えるような手立てを行い、自宅等で活動できるようにする。	B	・体育の授業や部活動に一生懸命取り組んでいる児童生徒の割合は88%であった。今後も体育、保健の授業を通して自身の健康について考える時間を設定していく。	森・門司	体育主任 部活動顧問
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・業務改善の支援や会議の精選により、教職員の業務取組時間の確保に努める。 ・年休取得の年10日を確実に実施する。 ・業務記録により勤務実態の把握をする。	A	・夏季休業中に夏季休暇10日間(10日間)の取得を設定し、教職員が取得しやすい環境を整備した。 ・「毎月の時間外勤務の削減や定時退勤日の実施、計画的な年休取得に取り組むことができましたか。」のアンケートに肯定的な評価は89%であった。 ・全職員の時間外勤務時間の平均が12.5時間であった。	貞松・江頭	管理職
	○行事の精選を実施し、時期や内容の見直しを行い、児童生徒にとって必要な行事に取り組む。	○コロナ禍において削減、規模縮小した行事を見直し、昨年度より2割削減を目指す。	・次年度の統廃合に向け、滝野校として最後に必要な行事に取り組む。	B	・「学校行事、PTA行事等、教職員が関わる行事について、本年度削減できたと思いますか。」のアンケートに肯定的な評価は86%であった。 ・感染拡大防止を徹底することで、体育大会に保護者、地域の方が参観することが出来た。 ・参観日や主催授業は中止とした。	貞松・江頭	管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目						主な担当者	主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価			
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し		
○開かれた学校作り	○学校運営協議会(OS)を軸に家庭・地域とつながり、地域を元気にする学校づくりに取り組む。	○学校評価アンケートにおける「開かれた学校」において肯定的な回答をした学校評議員、保護者を90%以上にする。	・地域の人材を活用して、児童生徒が郷土の歴史や文化に触れる機会を設ける。 ・学校からの情報発信に心掛け、統廃合に向け、学校運営協議会を活用し、積極的に相互協力を行う。	B	・中間評価において、肯定的な回答は学校関係者は93%、保護者は100%、また、教職員は82%であった。これは、昨年と比較し、外部人材の活用を実施できたためと考えられる。 ・学校からの「学校・学年便り」、「ホームページ」、「配信メール」での情報発信に心がけた。 ・地域行事がコロナウイルス感染拡大防止のため中止になることが多く、参加・協力ができていない。	貞松・江頭	管理職

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ●学力の向上 ●心の教育 ●健康・体づくり ●業務改善 ○開かれた学校作り
--------------------	---